

生後2か月から受けられるワクチン

小児肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌による細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎などを予防するワクチンです。

【接種間隔】標準的には、1歳までに27日以上の間隔をあけて3回接種

※接種を開始した月齢や接種状況により、接種回数が異なるため、接種医や保健センターに確認してください。

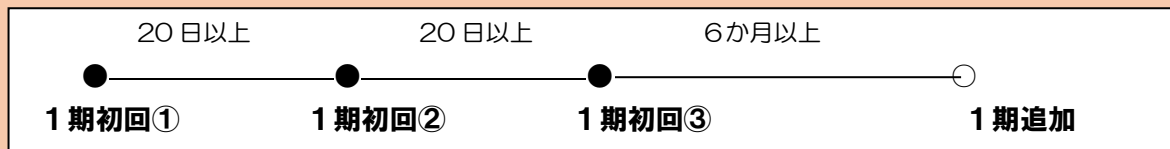


5種混合ワクチン（1期初回対象者）

「百日せき」「ジフテリア」「破傷風」「ポリオ」「ヒブ感染症」の5つの病気を予防するワクチンです。

これらの病気にかかると、非常に症状が重くなり、特に乳児では命を落とすこともあります。ポリオは、脊髄性小児麻痺とも呼ばれ、日本では自然流行はなくなりましたが、世界ではまだ流行しているところがあります。ポリオに対する唯一の対処法は「予防」です。なるべく早い時期に予防接種をうけましょう。

【接種間隔】1期初回は、20日以上あけて3回接種

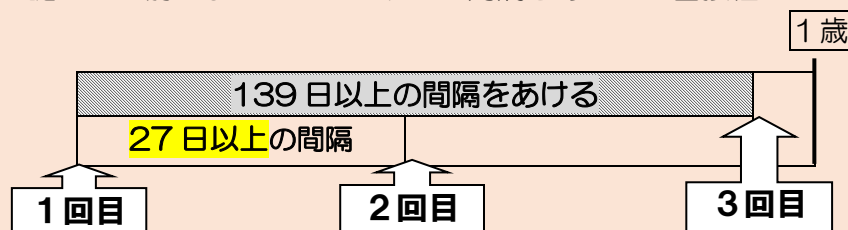


B型肝炎ワクチン

B型肝炎ウイルスの感染を予防し、感染により将来発生する慢性肝炎・肝硬変・肝がんを防ぐためのワクチンです。

B型肝炎ウイルスへの感染は、B型肝炎ウイルス陽性の血液に直接触れたような場合や、肝炎ウイルス陽性者との性的接触などで生じます。リスクは高くありませんが、集団生活の中での感染の可能性もあります。

【接種間隔】1歳の誕生日の前日までに27日以上の間隔をあけて3回接種



※ラテックスアレルギーについて

製剤によっては、注射液の容器のゴム栓に天然ゴム（ラテックス）を使用しているため、ラテックス過敏症のある場合は注意が必要になります。主治医と相談してください。

※定期予防接種の対象から除外される場合

HBs抗原陽性の母親から生まれた児で、胎内や産道での感染を予防するため、出生後に抗HBs人免疫グロブリンの投与と合わせてB型肝炎ワクチンの投与を受けたことのある場合は、保険適応となるため、定期接種から除外されます。その場合も、接種券が届いてしまいますが、ご容赦ください。

生後3か月から受けられるワクチン

BCGワクチン

BCG ワクチンは、結核予防のためのワクチンです。

結核は、現在でもまだ毎年2万人を超える患者が発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。とくに乳幼児は、結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。接種期間も短いため、なるべく早めに予防接種を受けましょう。

【接種期間】**生後3か月～1歳の誕生日の前日まで**（望ましい接種期間は生後5～8か月）

【接種方法】管針法（スタンプ方式）で、上腕の2箇所を押つけて接種

- BCGワクチンは太陽の紫外線に弱いので、接種後は日陰で乾燥させてください。接種当日は袖のある服装にしてください。
- 免疫がついた反応として、接種後10日から4週間頃に赤いポツポツができ、一部に小さいうみが出る場合がありますが、接種後3ヶ月頃までに治ります。絆創膏などは貼らず、清潔に保ちましょう。

◇副反応について

【通常の副反応】

- 接種箇所が赤くなったり、腫れたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。
- 発熱、刺激に反応しやすい、機嫌が悪い、ぐずる、眠そうにする、などの症状が出る場合があります。

【重大な副反応】

- アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、顔面蒼白、血圧低下など）
- 急性散在性脳脊髄炎（発熱、嘔吐（おうと）、意識がはっきりしない、手足が動きにくいなど）等

予防接種を受けた後、気になる症状や体調の変化があった場合は、すぐに接種医に連絡しましょう。

◇健康被害救済制度について

予防接種法に基づく定期の予防接種による健康被害の救済制度です。健康被害が予防接種と因果関係があると厚生労働大臣が認めた場合、①医療費②医療手当③障害児養育年金④障害年金⑤死亡一時金⑥葬祭料等の救済が受けられます。

予防接種を受ける前に、

「予防接種と子どもの健康」や説明書をよく読んでから接種しましょう。

（お手元がない方は、下記へご連絡ください。）

【お問合せ】 清水町図書館・保健センター複合施設(まほろば館)内
保健センター TEL055—971—5151